

浮世絵と巡る東海道

- 1 金沢横丁道標四基
- 2 旧保土ヶ谷本陣跡
- 3 旅籠本金子屋跡
- 4 復元した一里塚と松並木・上方見附モニュメント
- 5 元町のまちなみ
- 6 旧権太坂
- 7 境木武相国境

近代の発展を支えた帷子川沿いの工場跡地・商店街を巡る

- 8 東洋電機製造跡、日本金属工業跡
- 9 旧帷子橋跡
- 10 橋樹神社
- 11 天王町商店街
- 12 富士瓦斯紡績工場跡
- 13 水道道跡
- 14 程谷曹達（保土谷化学）
- 15 大日本麦酒（日本硝子）跡
- 16 古河電池跡

丘の洋館・カトリック教会を巡る

- 17 杉浦邸
- 18 井澤邸
- 19 保土ヶ谷カトリック教会
- 20 入澤邸
- 21 小菅邸
- 22 薫藤邸
- 23 「横浜の洋館付き住宅」の展示 U S C
- 24 中島邸（旧喜久の家族館）

コース周辺の見どころ

1 江戸方見附跡…江戸方見附は、各宿場の江戸側の出入口に設置されていたもので、土盛をした土壁の上に竹木で矢来を組んだ構造をしていて、宿場の範囲を視覚的に示していました。

2 橋樹神社…文治2（1186）年創建と伝えられる。大正10（1921）年に橋樹神社と改称。第二次世界大戦後、隣接していた神明社を境内としました。

3 旧古町橋跡…江戸時代初期の東海道は、この場所に帷子川を渡る「古町橋」がありました。帷子川の河川改修により、昭和41年（1966）に架設されています。

4 ステンレス鋼発祥の地…昭和7年に創立された日本金属工業株式会社によって、日本で初めてステンレス鋼の製造に成功したことを記念する碑があります。

5 神明社…創建は平安時代中期（970年）。当地は伊勢神宮の御領地として寄進され桑谷御厨と呼ばれ、その鎮守として神明社が建立されました。祭神は天照大御神。

6・7 耕地整理竣工記念碑…帷子川流域一帯では耕地整理事業事が明治36年から順次始まり、大正7年（1918）と昭和16年（1941）に記念碑が建てられました。

8 旧中橋跡…慶安元年（1648年）の東海道のレート変更に伴い今井川も川筋が変えられ、この付近に「中橋」が架けられました。江戸時代の終わりに現在の今井川に流れが変わったため、橋はなくなりました。

9 助郷会所跡…宿場で賄ひきれない人馬を周囲の村から勤員する「助郷」という制度があり、その詰所です。

10 間屋跡…公用旅行者の荷物の運搬（馬連立）や飛脚の業務を取り扱うところです。

11 高札場跡…幕府の掻やお触れを貼り出す所で、宿泊代や人馬代も示されました。

12 脇本陣（大金子屋）跡…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室101畳の部屋があり、伊能忠敬測量隊も宿泊しました。

13 脇本陣（藤屋）跡…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室110畳の部屋がありました。

14 脇本陣（水屋）跡…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室97畳の部屋がありました。

本部 **見学ポイント** **展示** **まちかど博物館**

コース周辺の見どころ ● その他の施設 ··· 階段

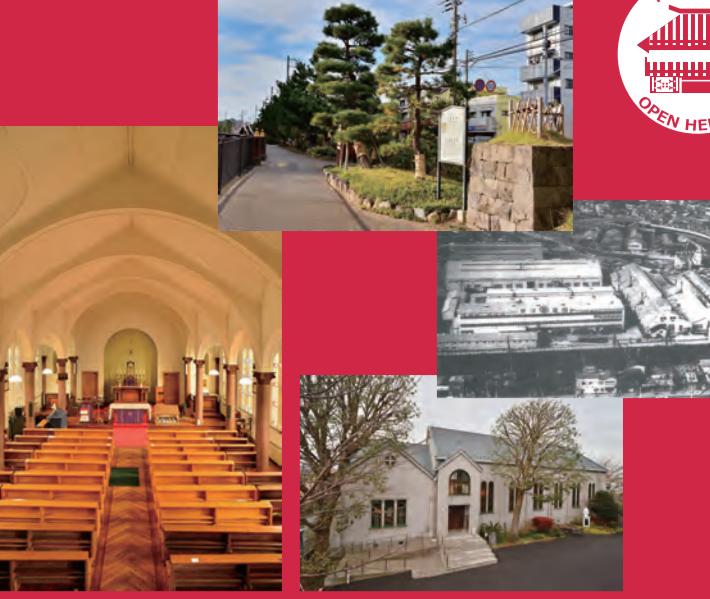
近代工場跡地 学校 公園・緑地

※イベント開催中には、「ガイドツアー」「フリーウォーク」**保土ヶ谷 イベント**検索が開催している期間中となります。

まちあるき参考コース

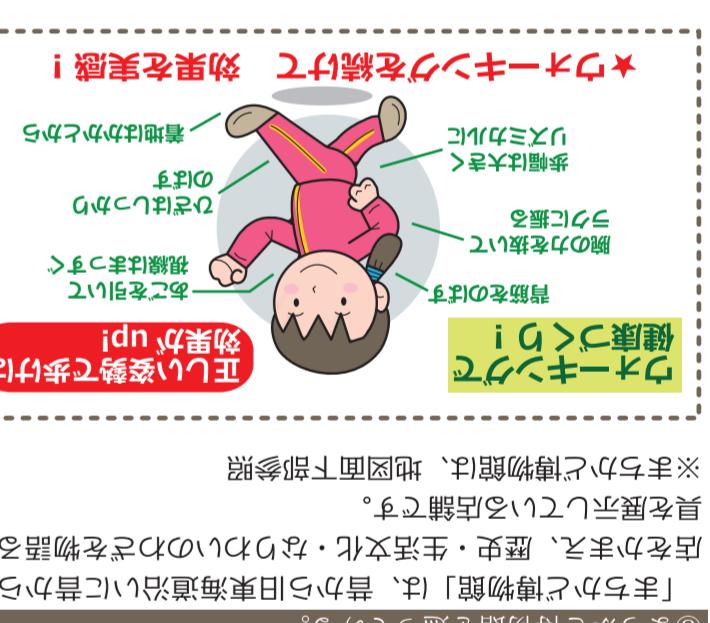
- A …浮世絵と巡る東海道
- B …近代の発展を支えた帷子川沿いの工場跡地・商店街を巡る
- C …丘の洋館・カトリック教会を巡る

※各コース約2時間



保土ヶ谷区の歴史的建造物公開ウォーキング

保土ヶ谷 歴史まちあるき



※各コース約2時間

※イベント開催中には、「ガイドツアー」「フリーウォーク」**保土ヶ谷 イベント**検索が開催している期間中となります。

※各コース約2時間

※各コース約2時間

※各コース約2時間

浮世絵と巡る東海道

保土ヶ谷宿は、慶長6年（1601年）東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿場として誕生した。保土ヶ谷区を通る旧東海道は、芝生村追分（現在の西区との区境）から、境木地蔵付近（現在の戸塚区との区境）までの約5kmであった。

その内、宿場としてのまちなみを残えていた「宿内」は、江戸方見附（現在の天王町）から、横浜方面見附（現在の岩崎ガード付近）までの約2kmである。宿内には本陣を始め旅館や茶屋、商店が立ち並び宿場町として大いに賑わっていた。そのような保土ヶ谷宿の風景を描いた浮世絵が多く残っている。長崎北斎や歌川広重等によって描かれた浮世絵と共に旧東海道を歩き、遠く江戸時代に思いを馳せるのも楽しい。

1 金沢横丁道標四基



2 旧保土ヶ谷本陣跡（軽部家）

主屋：大正14（1925）年建築／木造平屋建／洋館付き住宅
門：不明／木造平屋建／玄関門
蔵：大正12（1923）年建築／鉄筋コンクリート造2階建／石造庫倉庫



3 旅籠（はたご） 本金子屋跡（金子家）



保土ヶ谷宿の旅籠として残る建物。本金子屋は保土ヶ谷宿の平旅籠として明治18年まで営業していたが、明治20年の国鉄東海道線の開通に伴い、宿場の機能が徐々に失われてゆき廃業したと伝えられる。

保土ヶ谷の近代水道・その他

■保土ヶ谷の近代水道（水道道）

横浜の発展のため明治16（1883）年にイギリス人土木専門家のヘンリー・バークマに設計を依頼し、新式の「創設水道」の工事に着手した。津久井の三井に水源を求め、西谷を経由し帷子川沿いの現在の水道道（西谷→星川→天王町→藤棚→西戸部）を通り43キロの道を延々と横浜まで引いてくるものだった。明治20（1887）年に全工事が完成し、我が国初の衛生的な近代水道の歴史が始まった。

■もう一つの保土ヶ谷水道

大正12（1923）年の関東大震災の復興事業の一環として横浜市は、橋子・時田・大岡方面に配水強化を図るために新設水道の建設に着手、大正15（1926）年～昭和6（1931）年にかけて完成させた。西谷へと和田町で既設の水道と分歧し神戸町へ保土ヶ谷駅の北側を渡り、東隧道、大原隧道を通して南区の南太田に抜ける水道道である。

4 復元した一里塚と松並木、上方見附モニュメント



平成17（2005）年復元
一里塚/松並木/
上方見附

平成17年12月、横浜市の事業である第1回「ヨコハマ市民まち普請事業」に選ばれ、平成19年2月、市民の手で一里塚と松並木が復元された。

近代の発展を支えた帷子川沿いの工場跡地・商店街を巡る

保土ヶ谷の工業の歴史は、現在の天王町に富士瓦斯紡績（綿糸製糸場）を創業したことから始まる。この地域は帷子川の水運や工業用水が非常に利用しやすく、大規模な区画整理事業によって広く平坦な工場用地が用意され、その後、大日本麦酒（後の日本硝子）、古河電池、程谷曹達等の工場が進出し、帷子川に沿って次々と工業地帯化して行った。物流動線として1917年（大正6年）相模鉄道（相鉄線）が開業、さらに、工場勤めの人々の住宅需要は周辺の桜ヶ丘、月見台、峰岡町などの住宅地の発展を生んだ。

8 東洋電機製造跡、日本金属工業跡

東洋電機製造：大正7（1918）年～不詳
日本金属工業：昭和7（1932）年～不詳

東洋電機製造
大正7（1918）年設立。当時、機械類はほとんど英・独・米からの輸入品で、第一次世界大戦では輸入物資がままならず、鉄道車両用電気機器の國産化的使命を帯びて設立され、電車のモーターを国産化した企業である。製品の車両を移動させる引込線が保土ヶ谷駅に直結して今も残されている。

日本金属工業
昭和7（1932）年、ステンレス鋼の製造を目的として設立。日本最初のステンレス鋼の製造を手がけた。工場跡地の高層住宅団地の入口の植え込みに「ステンレス鋼発祥の地」の記念碑がある。

9 旧帷子橋跡

市登録地域史跡名勝天然記念物
【平成10（2008）年11月】



旧東海道の道のりは、日本橋から保土ヶ谷宿までは平坦であったが、元町から堀川までの急坂は旅人にとって最初の難所であった。一番坂と二番坂があり、かつては道の両側に松並木が広がり、昭和の初めごろまではその景観を残していたと云う。また、現在の花見台から元町橋に至る坂道は、江戸時代以前の古東海道の「神奈川坂」であったという説が伝えられる。

10 横樹社

創建は鎌倉時代1186年と伝えられ、京都の八坂神社の分室。明治時代までは「牛頭天王社」と称してたが、大正時代に武藏國横樹の名前を取り横樹神社と改められた。現在の木殿は戦後の建築。本殿の左手にある背雲金剛唐草塔（しょうもんこんどうこうじんとう）は1699年のもので横浜市内最古と云われている。

11 天王町商店街

「天王町」の町名は、横樹神社の旧名「牛頭天王社」から名付けられたと云われている。戦後は富士瓦斯紡績の表門からまっすぐ伸びる通りに沿った商業地として工場と共に発展したことから、「横樹前通り」又は「表門通り」と呼ばれていた。家具店や映画館などが立ち並び、地域住民や工場労働者の生活必需品を揃える保土ヶ谷を代表する商店街として大いに賑わった。

12 水道跡道 明治20（1887）年

明治20（1887）年に敷設された近代水道の遺構。水道道（すいどうみち）と呼ばれる。津久井の水源から西谷→星川→天王町→藤棚→西戸部通り43キロに渡り、横浜居留地まで給水され、日本初の近代水道の第一歩を刻んだ。この通りは戦前「保土ヶ谷海岸」などの映画館も多く建ち並び人気を博していた。

27 北向地蔵

市登録地域史跡名勝天然記念物
【平成19（2007）年12月】

修繕の時などに地蔵の向きを変えて、いつの間にか北向きに変わったので「北向地蔵」と呼ばれるようになったそうである。地蔵の左側には「かなわかまくら道」の分岐点であり、地蔵の角柱には「是より左の方なまくら道」、「是より右の方くぬぐ寺道」と刻まれ、金沢方面へ弘明寺方面への道案内も兼ねていた。

26 大原隧道 昭和3（1928）年 馬蹄型トンネル

市認定歴史的建造物
【平成12（2000）年11月】
関東大震災復興の際、築堤、闇村、大岡方面の配水強化を図るために、保土ヶ谷町と南太田町を連絡する道路用トンネルと併用で計画・整備された。外観表面は、栗とトスカナ式の柱頭に花崗岩。その他はフランス式積レンガを張ることにより、梁、柱の構造的なデザインを明確にした優れた意匠となっている。

28 御所台の井戸 不詳

市登録地域史跡名勝天然記念物
【平成3（1991）年11月】

「かなわかまくら道」の途中の急な坂道（いわな坂）沿いのひっそりとした一角が政子の井戸とも呼ばれる「御所台（ごよだい）」の井戸である。政子とは、類朝の妻で、類朝の死後に実質的に將軍の仕事を行ひ「尼將軍」と呼ばれた北条政子のこと。この井戸の水を政子が化粧水を使ったという言い伝えがあり、この一带が政子の所領する土地だったのでないかという説もある。

丘の洋館・カトリック教会を巡る

1920年代（大正から昭和初期）、和風住宅の玄関脇に小さな洋館（洋館）が建つた。大正から昭和にかけて洋折衷のライフスタイルが普及し、一般的な住宅にも洋館の影響を受けた建物が全国各地に多く建てられるようになった。洋館付き住宅の魅力は、屋根の形、外壁の仕上、窓の意匠などそれぞれの建物が個性的な工夫を凝らし、モダンな洋館と簡素な和室が一体となって、住まいとしての魅力を引きだしている点である。

17 杉浦邸 昭和4（1929）～5（1930）年頃建築 木造平屋建／洋館付き住宅

平屋建、中廊下式間取りで、外観は全洋館様式。かつてのドイツ式見張室の外壁と玄関扉の応接室窓の鏡面はクリム色で塗装されている。この建物は赤い人造スレート葺（近年改修済）であった。モダンな洋風意匠の建物で、樹木に囲まれた昭和初期の月見台の住宅地景観を偲ばせる住宅である。

18 井澤邸 昭和11（1936）年建築／木造2階建 洋館付き住宅

昭和60年まで内科・小児科の町医者「井澤医師」として営業。洋館部分を待合室として使用しており、地域に親しまれてきた建物。洋館を囲んで後年に増築2階建となり、最も目立つ敷地角にランドマークとして洋館部分を見ている。

19 保土ヶ谷 カトリック教会 昭和14（1939）年建築 木造平屋建／教会建案

パリ外宣教会フランス人のシエラ神父が私財を投じ、フランスからスレートなどを取り寄せて建てた教会であると伝えられている。様式はロマネスク風であり、外壁をモルタル塗りで仕上げた質素な意匠で、細かいところまで手の込んだ建物である。チェコ出身の建築家J.L.スワガによる設計と言われている。

20 入澤邸 昭和9（1934）年建築 木造2階建／洋館付き住宅

洋館は切妻を正面に見せず横向きとした配置が珍しい。洋館の屋根は施釉フランス瓦葺き。広縁の天井には戦時中の焼夷弾の跡が残る。

29 植崎邸 昭和6（1931）年建築 木造2階建／町屋

町屋（商家）としては、旧東海道保土ヶ谷宿沿道に唯一残る建物。米屋として昭和15年頃まで営業していた。伝統的商家造りである。前面は横濱側は江戸時代の旧東海道の時代の道路境界線がまだ現在も変わっていないことが知られており、旧宿場通りの歴史的景観を偲ばせる歴史的建物として貴重である。

30 大仙寺（本堂・山門） 昭和14年（1701年）推定 木造平屋建／寺院建築

高野山真言宗の寺院。かつては旧東海道（現在の国道1号）まで参道が通っていたが、明治19年に参道を国鉄が横切る形で開通し現在は路切が設置されている。

21 小菅邸 昭和6（1931）年建築 木造平屋建／洋館付き住宅

昭和9年子どもの就学を機に、南区の六ヶ所より現地に移築した珍しい経歴を持つ建物。近年外部を改修した。屋根は切妻と入母屋の複合型。

22 斎藤邸 昭和9（1934）年建築 木造2階建／洋館付き住宅

上げ下げ窓の窓、窓の枠組がレトロで結露防止と玄関扉と玄関扉の応接室窓の鏡面はクリム色で塗装されている。この建物は赤い人造スレート葺（近年改修済）であった。モダンな洋風意匠の建物で、樹木に囲まれた昭和初期の月見台の住宅地景観を偲ばせる住宅である。

「横浜の洋館付き住宅」の展示 USC（イベント開催中のみ）

横浜に建つ洋館付き住宅約100棟を今は失われた建物も含め写真で紹介する。また、洋館付き住宅が生まれた歴史などの解説とともに展示される。

23 三輪邸 昭和2（1931）年建築 木造2階建／洋館付き住宅

外壁は全て下見板張りの和風造りだが、玄関の奥に奥に応接室があり、和室部分は2間続きの座敷を配し、秀逸な書院造で創建時の形をよく留めている。

24 中島邸（旧喜久の旅館） 大正13（1924）年建築 木造平屋建／洋館付き住宅

昭和28年頃増改築して平成17年頃まで旅館業を営んでいた。洋間は2帖、元は玄関踏込より直接入り、洋間の続き部屋は2間続きの座敷を配し、秀逸な書院造で創建時の形をよく留めている。

31 帷子会館 大正期建築／木造平屋建／近代洋風

当初は消防署の消防車を収納していた建物。現在は町内会館として利用されている。扉や窓は後に改修されたものだが、大正期の建物として旧東海道沿いに残る稀有な洋風建物である。歴史的建造物の良い保存活用例といえる。